



第16回 OECC 海外環境協力セミナー

Mitsuaki Aikawa
OECC 研修部会長 相川 光明

OECC 研修部会では会員向けの研修会を年に3回、会員以外の方も対象としたセミナーを年2回開催している。今回、第16回のセミナーは「環境問題を日中で共有するための取組」～環境協同体・東アジア地域を意識して～をテーマとして、平成18年11月14日(火)に新宿御苑インフォメーションセンターで行った。参加者は事務局、講師を除き、47名であった。

今回のセミナーを企画するにあたっては、過去のセミナーにおけるアンケート結果、近年の海外の環境に関する注目度合い等、以下の点に留意した。

1. 昨年の14回 OECC セミナーでは、「中国第十一次五ヶ年計画(2006～2010)における中国環境政策の動向」のテーマで行われた。参加者からは時間が短く詳細な内容が聞きたい、再度同様の内容のセミナーの機会を作って欲しい等の意見が多かった。
2. 近年の中国は急激な経済発展により、多くの環境負荷が生じており、今後早急に対策に取り組む必要がある。
3. セミナーのテーマを明確にして議論する焦点を絞る。

研修部会で種々の議論をした結果、ターゲットを中国の環境問題に絞り、今回も上智大学の柳下教授に指導を仰ぐこととした。柳下教授からは、地理的・歴史的な見地から日本と中国・韓国は今後も本気で議論できる関係であらねばならない。たとえ辛口な意見でも、お互い正当な議論を言いあえる関係であるべきだ。柳下教授のこうした指摘から中国と日本の環境協力を根本から考え直すことにした。基調講演では、愛知大学 COE フェロー「国際中国学研究センター事業推進委員」、筑波大学名誉教授の榎根先生より「東アジア環境学の構築にむけて」とのタイトルで講演を頂いた。先生の講演からは目先の対処療法ではなく、幅広い哲学的観点(筆者感想)から、種々な事象を四象限に分割したアプローチの方法、デカルト的

元論からの脱却等の講演を頂き、これまでの考え方とは全く違う世界の説明を受けた。まさに「目から鱗」状態であったのは筆者だけではなくてであろう。基調講演の後は、パネルディスカッションに向けての問題提起を想定し、日中友好環境保全センター顧問(前総工師)の欧陽訥先生より現在の中国の状況と今後の方向性について講演を頂いた。また、柳下教授からは「新たなステージを迎えた日中環境協力の方向を探る」との題材での講演であった。これまでの日中環境協力の主体であった ODA からの脱却の必要性、循環型環境経済政策、新たな環境政策レジームについて、日中環境協力に関して知悉した先生でなければ発想できない、種々の分析や問題提起をしていただいた。その後のパネルディスカッションでは、柳下教授にコーディネータをお願いしたが、多くの時間を種々の質問の回答にとられ、本来(環境問題を日中で共有するための取組)の議論が多くできなかった。この点はセミナーの反省点として今後の運用に活用していきたい。

今回のセミナー参加者をお願いしたアンケートでは、概ね好意的な評価をいただいた。また、中国の環境問題への関心の強さが示された。OECC としては今後とも皆様のニーズに合致した研修会やセミナーを開催していく方針である。セミナー・研修会で取り上げるべきテーマ等、ご意見がございましたら、事務局迄連絡を頂ければ幸甚です。

